通所リハビリテーション
事業拡大のご案内

2025年5月より 定員10名 ▶▶ 25名



●退院直後に
リハビリを継続したい

●運動のアドバイスが欲しい

●活動を通じて他者との
交流の場を広げたい

●心と体の健康を保ち、
潤いのある生活を送りたい

2025年5月1日より通所リハビリテーションの受け入れ定員を増員します。

これまでは本館リハビリテーション室にて定員10名で実施しておりましたが、2025年5月1日より南棟「多目的室」に場所を移し、定員を25名に増員して営業します。

より良いサービスを提供し、利用者の皆様の生活に良い変化をもたらすことができるようにスタッフ一同努力してまいります。

介護保険をお持ちでご興味のある方は、通所リハビリテーション担当　足立までお問い合わせください。

当日の流れ

1. バイタル測定
2. リハビリ体操
3. マシントレーニング
4. 個別運動指導
5. 整理体操

営業時間

月曜日～土曜日（祝日含む）

❶ 10：30～11：50
❷ 13：00～14：20
❸ 14：40～16：00

ご利用料金・詳細は
スタッフまでお尋ねください。

お問い合わせ　〒276-0015 千葉県八千代市米本1808番地　TEL：047-488-1555 / FAX：047-488-1552

病院周辺マップ



交通のご案内

<京成電鉄勝田台駅からのご案内>

勝田台駅から東洋バスで米本団地行15分
「八千代リハビリテーション病院」停留所下車

<お車をご利用のご案内>

国道16号線柏方面からお越しの方

米本交差点を右折し病院後方入口より
お入りください。

国道16号線千葉方面からお越しの方

米本交差点を通過のうえ病院正面入口を
左折してください。

<送迎バスのご案内>

京成勝田台駅北口、千葉ニュータウン
駅より無料送迎バスが
運行しています。
詳しくはHPをご確認ください。 当院HP▶

八千代リハビリテーション病院　広報誌
クローバー vol.56
令和7年　5月発行

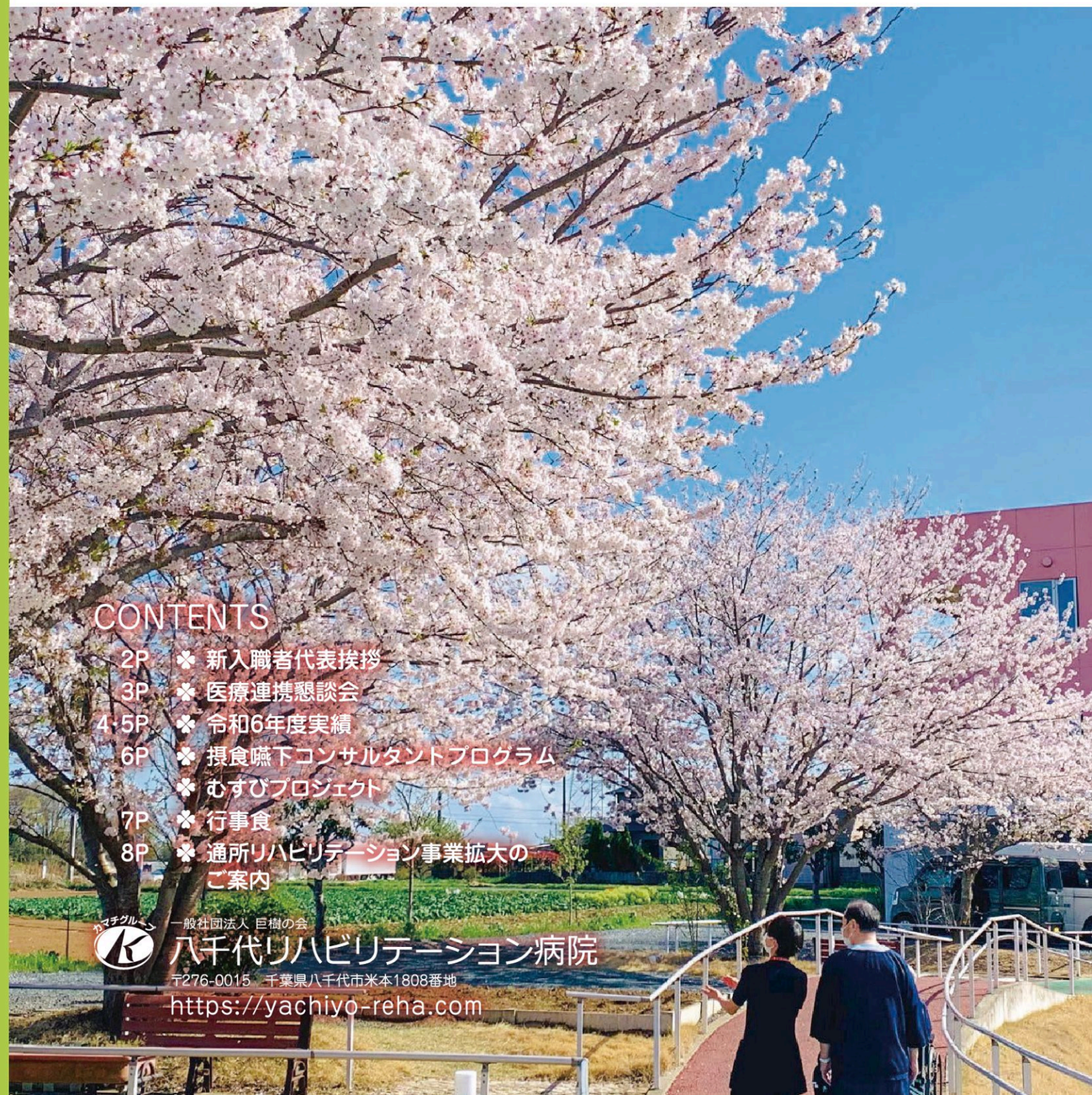
企画発行　八千代リハビリテーション病院
広報委員会
〒276-0015　千葉県八千代市米本1808番地
TEL 047-488-1555 ／ FAX 047-488-1552

広報誌 クローバー

https://yachiyo-reha.com

広報誌　Clover ／2025.5　春号　Yachiyo Rehabilitation Hospital

クローバー vol.56



CONTENTS

2P　新入職者代表挨拶
3P　医療連携懇談会
4・5P　令和6年度実績
6P　摂食嚥下コンサルタントプログラム
　　むすびプロジェクト
7P　行事食
8P　通所リハビリテーション事業拡大の
　　ご案内

一般社団法人 巨樹の会
八千代リハビリテーション病院
〒276-0015　千葉県八千代市米本1808番地
https://yachiyo-reha.com



新入職者代表挨拶

看護師

私は、患者さん一人ひとりに優しく思いやりを持った看護師の姿に憧れ、看護学校に入学しました。学生時代は実習や課題で挫けそうになることもありましたが、厳しい国家試験を乗り越え、夢だった看護師になることができました。実際に病棟での入職前研修では緊張し不安なことも多くありましたが、先輩方が優しく声をかけてくださり、安心して研修を受けることができました。そのような先輩方と一緒に仕事ができると思うと、入職前から働くことが待ち遠しくなりました。回復期リハビリテーションナースとして、常に患者さんに寄り添い、安心・安全な療養生活を提供し、退院支援ができるように頑張っていきます。先輩看護師の皆さん、他職種の皆さん、ご指導お願いいたします。

作業療法士

これからの新しい環境へ期待感と緊張感を抱えて入職式を迎えました。
入職前は作業療法士として患者さんときちんと関わることが出来るか不安でした。しかし、先輩方が患者さんに真摯に向き合う姿を間近で拝見し、自分も先輩方のように患者さんと向き合いたいという気持ちが強まりました。また同時に、もう学生では無いことを再認識し、より一層引き締まった気持ちです。少しでも早く理想のセラピスト像に近づき、臨床で活躍できるよう自己研鑽を重ねていきたいと思います。

理学療法士

入職式当日は社会人という実感があまりありませんでしたが、先輩職員の方々からの歓迎のお言葉や、働いていくために必要になる事を教えて頂き、理学療法士として働くという実感が沸いてきました。これから理学療法士として患者さんと関わっていく中で、同期とレベルアップのため切磋琢磨し、一日でも早く患者さんに最適なリハビリを提供できるよう日々学んでいきたいと思います。

医事課

明るい職場で先輩方が解りやすく丁寧に指導してくださるので、1つ1つ学んでいくのが楽しいです。チームの一員として自立出来る様、日々励みたいと思います。
宜しくお願いします。



Medical Cooperation Roundtable

医療連携懇談会



昨年度、当院にご紹介いただいた病院職員の方々を招いて開催いたしました「医療連携懇談会」には、多くの皆様にご参加いただきました。ありがとうございました。

今後とも、より一層の連携強化を図り、地域医療の発展に貢献して参りたいと存じますので、引き続き“顔の見える連携”にふるってご参加ください。

職員一同お待ちしております。











八千代リハビリテーション病院 令和6年度実績

入院患者数
1,002名

患者満足度 ※1
当院を紹介したいと思いますか？
89.6点

病床利用率 97.4%

在宅復帰率 ※2 92.0%

平均在院日数
86.0日

退院先

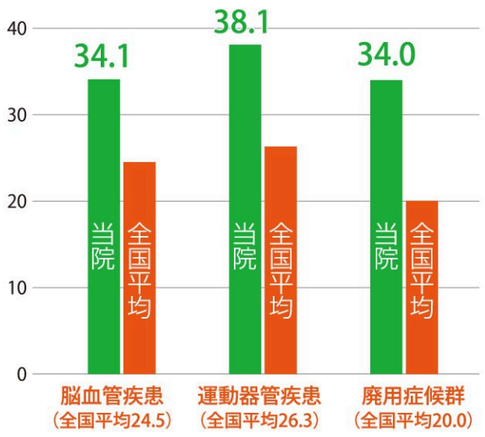
1. 自宅 77.4%
2. 介護老人保健施設 6.4%
3. 有料老人ホーム 6.2%
4. 特別養護老人ホーム 5.6%
5. サービス付高齢者住宅 2.3%
6. 長期療養病院 1.2%
7. その他施設 0.1%

リハビリ提供単位数 ※3
平均 8.28単位
全国平均6.03単位

アウトカム実績指数 ※4
50.0

新規登録者数
訪問リハビリテーション 126名
通所リハビリテーション 32名

FIM利得 ※5（退院時FIM－入院時FIM）
機能的に自立度を図る評価法、点数が高いほど自立度が高い

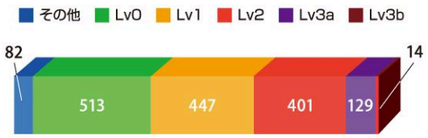


家屋調査実施数
入院時 223件
退院時 258件

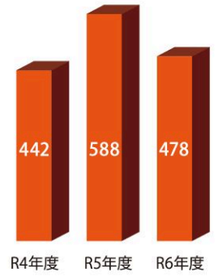
実車教習実施数
51件

医療安全指標

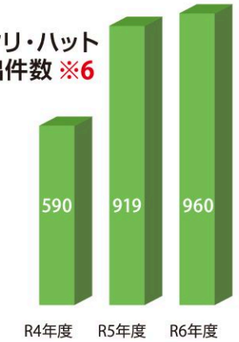
1 レベル別医療安全管理報告件数



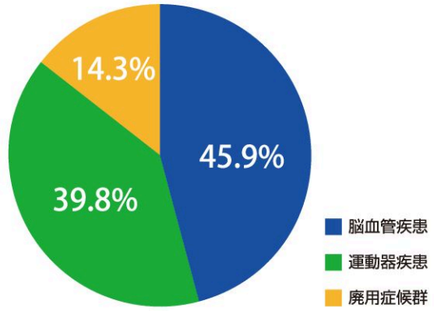
2 転倒・転落件数



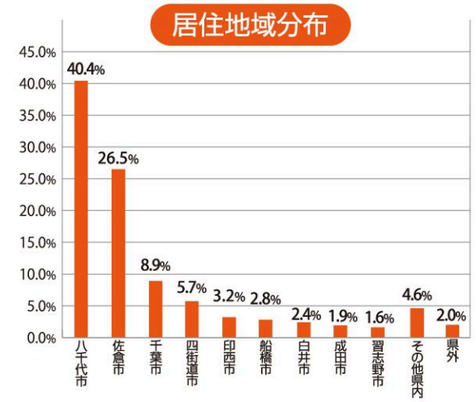
3 ヒヤリ・ハット提出件数 ※6



患者様疾患別内訳



居住地域分布



※1 患者満足度
当院では、患者さんやご家族のご意見をより良いサービスに繋げていく為、退院時にアンケートをとらせて頂いています。アンケートの一例として、「当院の総合的な評価点（100点満点中何点）」を患者満足度として表現しています。

※2 在宅復帰率
回復期リハビリテーション病棟から退院された患者さんのうち、ご自宅などに戻られた方の割合を示す指標が「在宅復帰率」です。数値が高いほど、リハビリテーションを通してご自宅での生活に必要な機能が回復したことを意味します（在宅には有料老人ホームなども含まれます）。

※3 リハビリ提供単位数
「リハビリ提供単位数」は患者さん1人あたりが1日に受けるリハビリテーションの時間です。リハビリテーションは20分を1単位として数え、単位数が多いほど、より多くの時間をリハビリテーションに費やしていることになります。

※4 アウトカム実績指数
リハビリテーションの効果を示す指標の一つが「実績指数」です。これは、患者さんの状態改善や早期退院を評価するもので、数値が高いほど、リハビリテーションの成果が出ていることを意味します。回復期リハビリテーション病棟入院料1（最も手厚い体制）取得の基準として、実績指数40以上と定まっています。

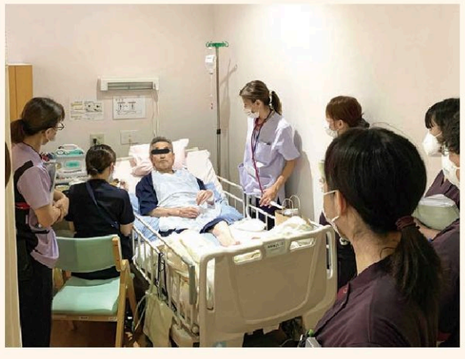
※5 FIM利得
機能的自立度評価表（Functional Independence Measure）の略で、食事や着替えなど、日常生活動作の自立度を評価する国際的な指標です。入院時と退院時の点数の差を「FIM利得」として表します。FIM利得が高いほど、入院中に日常生活動作が改善し、介助量が軽減した生活を送れるようになったことを意味します。

※6 ヒヤリ・ハット
ヒヤリ・ハットとは「ヒヤッとした」「ハッとした」出来事などの事故に至る可能性があったが、事故に至る前に発見されて防ぐことができた事です。事故を出来るだけ発生させないようにするにはヒヤリ・ハットなどの気づきやミス、事故に繋がりかねない出来事を多く発見し情報共有することが望ましいとされています。

摂食嚥下 コンサルタント プログラム







近年、入院される患者さんの中には、摂食・嚥下障害を持つ方が多くいらっしゃいます。

当院では、一人でも多くの患者さんがその人らしく生きていくためにも安全に「口から食べること」また、再び「口から食べられるようになること」を目指しております。

そこで、令和6年度より摂食・嚥下障害看護認定看護師を講師としてお招きし、①摂食・嚥下障害を持つ患者さんのQOLの向上を目指し看護実践できる人材の育成、②摂食・嚥下障害の看護分野に強みを持ち、自らが実践モデルとなり、当院の看護の質の向上とスタッフの指導に貢献できる看護師・介護スタッフを育成することを目的として、実務経験5年以上のスタッフを対象に、月2回12か月の年間プログラムで、講義・演習・ミールラウンドでの実践・症例発表等を行ってまいりました。

この年間プログラムの教育で得た知識と技術を有するスタッフ達は、当院において強みとなり、現在、各病棟で患者さんのために日々活躍しております。

むすび プロジェクト

「むすびプロジェクト」は当グループのリハビリ病院を退院された患者様が、
その人らしく生きいきと生活していただけるよう、支援するための取り組みです。
今回はその取り組みのひとつをご紹介いたします。

第3回 むすびプロジェクト研修会「その人らしさを支えるチームアプローチ」開催



▲ たくさんの方にご参加いただきました。



▲ 稲川利光先生と村上直也さん

令和6年8月2日、第3回むすびプロジェクト研修会が開催されました。カマチグループリハビリテーション関東統括本部長である稲川利光先生と、小金井リハビリテーション病院の作業療法士である村上直也さんが講師を務め、リハビリテーション科631名、看護師130名、事務部75名、連携室44名、ケアワーカー29名、薬剤科18名、栄養科16名、総数943名のグループ病院職員が参加し、チームアプローチに関する知識を深めました。

今回は入職1～3年目の職員を対象に開催しました。退院後に患者様が自分らしく生活できることを見据え、多職種が連携し専門性を活かした支援を提供する必要があると学びました。研修会で得た知識を活かし、退院支援の質の向上に取り組んでまいります。

行事食

一人でも多くの患者さんに満足していただきたいという思いを込め、
委託会社スタッフと一丸となって、今回は試行錯誤を重ね、新しいメニューにも挑戦しました。
見た目、味良く、たくさんの患者さんの笑顔が見られました。
これからも患者さんの笑顔を引き出す食事づくりに励んで参ります。

1月



- ご飯
- 味噌汁
- 豚の角煮
- 春菊の白和え
- 柚子のミルクプリン

8月



- 天丼
- すまし汁
- うざく和え
- 梅ゼリー

9月



- 栗ご飯
- すまし汁
- さんまの蒲焼き
- 菊花和え
- 手作りおはぎ

9月



- きのこと鮭の炊き込みご飯
- すまし汁
- 秋野菜の黒酢炒め
- ピーナッツ和え
- みたらしプリン

10月



- サフランライス
- コンソメスープ
- チキンのプロヴァンスソースがけ
- シーザーサラダ
- ハロウィン南瓜プリン

12月



- ピラフ
- コンソメスープ
- ミートローフ
- 海老のマリネサラダ
- クリスマスケーキ